

**岐阜大学医学部附属病院  
初期臨床研修プログラム**

**岐阜大学医学部附属病院  
医師育成推進センター**

## 【優れた医療人となるために何が必要なのか】

皆さんは将来、どのような医師を志していますか。10年後、20年後、どのような医師になっているのでしょうか。その間、どのようなキャリアパスを積み、皆さんが理想とする医師になれる、または近づけるのでしょうか。

大学病院では、common disease が診れない、1次・2次救急が学べない、あまりやらせてもらえず経験が積めないといった声をよく耳にします。果たして、本当にそうなのでしょうか。例えば、糖尿病で通院している患者さんがいるとします。「調子はどうですか」「今日はなんとなく、身体がだるい。なんとなく、意欲がわからない」といった会話のやり取りをしたとします。皆さんは、ここで何を感じるでしょうか。糖尿病のせいだろうから様子を見ましようか、とするのか、また何かの疾患が隠れている可能性があるから、ちょっと調べてみようと思うのか、実はここに、日常診療の難しさ、奥深さが隠れています。

では、何を検査すればいいのでしょうか。採血を一通りやってから考えるのか、何が起きているのか分からないからとりあえずCTを撮るのか、血液ガスを調べてみるのか、それを決めるのは皆さん自身であり、上級医からの指示を待っては手遅れになるかもしれません。こうした日常の診療においても、患者さんからのちょっとした一言や仕草に気づけるようにトレーニングすることが、初期研修の大きな目的の一つです。ですから、大学病院だから common disease が学べないのではなく、患者さんから学ぶ姿勢があれば、どんな病院で研修しても実は大きな差はないと思います。

確かに、一般病院での研修は大事だと思います。救急対応から飛び込みで夜間受診する患者さん対応は、市中病院での研修のほうが優れているかもしれませんし、common disease を見る機会も多いかもしれません。ですが、ここでちょっと視点を変えてみましょう。患者の訴え・症状から最終診断に至る過程で、どのような鑑別疾患をどのくらい考え、それらを除外するにはどんな検査が必要なのかを、理論に基づいて構築していくには、どのような教育を受けるべきでしょうか。先ほど述べた、将来の自分の理想の医師になるためには必要なことではないでしょうか。

医師になってからの2年は、将来の自分を決めるといっても過言ではありません。きちんと目的意識をもって、初期研修を行っていく必要があります。数ある病院の中で、大学病院ほど指導医・専門医をもった医師が、数多くいる病院はあるでしょうか。そんな中で経験を積めることは、たとえ患者を診る機会が少なくても、将来の自分に必ず役に立つはずで、研究会やカンファレンスを聞いているだけで、疾患毎の治療戦略の構築などを学べます。現在、新しい治療法の開発は目まぐるしく、ガイドラインだけではとても追いつけません。今後もそのような状況がしばらく続くであろうことは想像に難くありません。時代に乗り遅れるのか、それとも日常臨床で疑問に思ったことを解明していく医師になるのか、またガイドラインを変えるような新規の治療法を開発するような医師になろうと思うのか、そのようなリサーチマインドを育める環境は、大学病院以外ではできないとこだと思います。

将来の日本の医療の発展を担っていけるような医療人を、岐阜大学は育成していきます。そのためにも、是非大学病院を含めた研修カリキュラムを選択していただきたいと願っております。将来、自分の理想とする医師を目指すために、是非我々と一緒に仕事をしましょう。

岐阜大学医学部附属病院副病院長

医師育成推進センター長

古家 琢也

## 目 次

### 研修プログラムの名称及び概要 1

---

- ・ 理念、基本方針、臨床研修の特徴
- ・ プログラムの募集定員
- ・ 岐阜大学病院プログラム
  - 研修プログラムの名称
  - プログラムの特色
  - 臨床研修の目標の概要
  - 研修期間
  - スケジュール
- ・ 岐阜大学病院周産期プログラム
  - 研修プログラムの名称
  - プログラムの特色
  - 臨床研修の目標の概要
  - 研修期間
  - スケジュール
- ・ 岐阜大学病院地域医療重点プログラム
  - 研修プログラムの名称
  - プログラムの特色
  - 臨床研修の目標の概要
  - 研修期間
  - スケジュール
  - 指導医について
  - 臨床研修修了後の体制について
- ・ 協力型研修病院
- ・ 協力施設

### 令和7年度研修医募集要項及び処遇 15

---

# 研修プログラムの名称及び概要

## 理念

優れた医学的知識や技術力に加え、共感力と思いやりを備え、  
専門家として継続的に学び、成長することを望む医師を育成する。

## 基本方針

1. 基本の習得から先進医療の経験までバランスよく研修を行います。  
大学病院の研修の特色の1つに協力病院とのたすきがけコースがあります。大学病院でのアカデミックでかつ高度な医療の経験、多数の協力病院である市中病院でのプライマリー研修を経験できます。大学病院の中でも救急外来研修は充実してきました。
2. 研修医の声に基づく研修を実現します。  
研修医とのヒアリングを行い、救急外来研修を改変し、検査部研修を導入してきました。研修スケジュールは研修医のニーズを尊重して計画しています。
3. 社会からの求められる役割を自覚し、自ら研鑽できる医師を育成します。  
自主性をもち、自分のニーズに応じた研修スケジュールが可能です。我々は、岐阜県の地域医療の中核病院、最後の砦としての大学病院の診療にあたる自覚を身につけ、患者中心の医療を実践できるように指導します。

## 臨床研修の特徴

- ・ 未来型病院であるインテリジェントホスピタルにおいて、最新の情報システムの医療活用をマスターさせ、新時代を担う医師を養成する。
- ・ 医局の枠に縛られず、センター所属で「病院全体の研修医」として指導する。将来、基幹学会の認定医・専門医申請に対応できるよう疾患群・手術例・剖検例をセンターが適正に症例配分を行う。
- ・ 2年一貫、大学病院で研修する「単独コース」と、大学病院と協力型病院の2施設で研修する「たすきがけコース」がある。各診療科プログラムでは協力型病院での短期研修を含む場合があり、コース選択は柔軟的である。
- ・ 高次救命治療センターは、救急指導医と救急専門医を含めた専従医師が在籍しており、診療科の壁を取り払った総合的な高度救急研修が可能である。
- ・ 多様な研修ニーズに対応できる、大学病院の特色（各種医療センター）を活かしたオーダーメイド研修である（幅広い診療科と豊富な専門プログラムからのメニュー選択）。

## 修了認定

研修医として所定の期間研修を行った者に対し修了認定を行う。

- ・ 所定の期間のうち、必修科目について必要履修期間を満たしていること。  
不足分については不足日数分以上の追加の研修を行う。
- ・ 所定の期間のうち、休止期間が90日を超えていないこと。  
90日を超えた場合は、超えた日数分以上の追加の研修を行う。

修了認定は、以下の評価をもって行う。

- ・ 医師及び医師以外の医療職が研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価を行い研修医に対してフィードバックを年2回以上行う
- ・ 研修終了時に臨床研修の目標の達成度判定票を用いて到達目標の達成状況を評価
- ・ 臨床医として適正かどうかを評価

プログラムの募集定員

プログラム名	募集定員	摘 要
<b>岐阜大学病院プログラム</b> (基幹型)	22名	
(コース1)		岐阜大学医学部附属病院 2年一貫研修(原則)
(コース2)		1年目岐阜大学医学部附属病院 2年目協力型臨床研修病院から選択
(コース3)		1年目協力型臨床研修病院から選択 2年目岐阜大学医学部附属病院
(コース4)		救急や外科に特化した急性期コース 外科医エキスパート養成コース
(コース5)		東濃地区・飛騨地区出身の地域卒学生に推奨。東濃・飛騨地区の協力型病院から選択。
<b>岐阜大学病院周産期プログラム</b> (基幹型)	4名	
<b>岐阜大学病院地域医療重点プログラム</b> (基幹型)	3名	
合 計	29名	

(プログラム名) 岐阜大学病院プログラム

(1) 研修プログラムの名称及び責任者

プログラム名称 岐阜大学病院プログラム

責任者 医師育成推進センター 副センター長 大江直行

(2) プログラムの特色

協力型病院と連携したプライマリケア研修と専門医の取得を同時に視野に捉えたオーダーメイド構成になっており、豊富な指導医体制と岐阜大学に特徴的なセンター医療システムを活用している点が特筆に値する。柔軟な診療科選択や希望変更が可能であり、あらゆる研修ニーズに通年で応えられる。

(3) 臨床研修の目標の概要

必修科選択により先ずプライマリケアに関する研修の到達目標をクリアし、指導医評価を行う。次いで希望する診療科を自由選択して専門性の向上を図り、専門研修プログラムに前倒し的にリンクさせる。希望者を対象として初年度から専門医の取得を目指した平行型の研修をプロトコールに従い実践する。

(4) スケジュール

1年目の研修例

2 4 週	1 2 週	8 週	4 週
内科 (必修)	救急 (必修)	外科 (必修)	小児科 (必修)

2年目の研修例

4 週	4 週	4 週	3 6 週
産婦人科 (必修)	精神科 (必修)	地域医療 (必修)	自由科目 (選択科目)

備考：基幹型病院での研修期間は12ヶ月以上（協力型病院での研修期間は最長12ヶ月）、協力施設での研修は原則12週以内とする。

内科研修及び、救急研修については原則1年目とするが、それぞれ最大8週、2年目において研修することができる。

外科1（心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科）から4週単位で1科目、外科2（外科1で選択した外科以外の、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科から4週単位で1科目、または、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科から2週単位で2科目または4週単位で1科目）を必修とする。これらの科目については1年目または2年目に履修する。

一般外来研修は、内科、外科、小児科、地域医療のいずれかで4週以上研修する。

必修科目は到達目標を達成するまで延長可能。選択しなかった科目については、自由科目を使って到達目標を達成する。

ただし、到達目標が達成できるような選択になるように指導を行う。  
各診療科プログラムでは協力型病院での短期研修を含む場合がある。  
コース1, コース4に限り、臨床研修2年次からの大学院進学を認める。  
自由科目：第1内科、第2内科、第3内科、脳神経内科、総合内科、CCU、  
心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、産科婦人科、整形外科、  
脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、精神科、小児  
科、放射線科、麻酔科疼痛治療科、高次救命治療センター、病理部、検査部、  
新生児集中治療部（NICU）、地域医療、保健・医療行政、その他（協力型  
病院・施設の科目）



(プログラム名) 岐阜大学病院周産期プログラム

(1) 研修プログラムの名称及び責任者

プログラム名称 岐阜大学病院周産期プログラム  
責任者 医師育成推進センター 磯部 真倫

(1) 研修プログラムの特色

協力型病院と連携したプライマリケア研修と専門医の取得を同時に視野に捉えたオーダーメイド構成になっており、豊富な指導医体制とセンター医療システムを活用している点に特色がある。一般研修に加えて、周産期ケアができる小児科医、新生児ケアができる産科医の育成を目指す。

(2) 臨床研修の目標の概要

周産期に特化しているが、プライマリケアに関する研修到達目標を先ずクリアすることを条件とする。次いで、地域医療も包含した幅広い周産期と新生児期ケアを中心とした研修を行い、関連病院への派遣研修も含んだNICU研修を実践する。

(3) スケジュール

1年目の研修ローテーション例

24週	12週	8週	12週
内科 (必修)	救急 (必修)	外科 (必修)	小児科 (必修)

2年目の研修ローテーション例

12週	4週	4週	20週
産婦人科 (必修)	精神科 (必修)	地域医療 (必修)	自由科目

備考：基幹型病院での研修期間は12ヶ月以上（協力型病院での研修期間は最長12ヶ月）、協力施設での研修は原則12週以内とする。

内科研修及び、救急研修については原則1年目とするが、それぞれ最大8週、2年目において研修することができる。

外科1（心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科）から4週単位で1科目、外科2（外科1で選択した外科以外の、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科から4週単位で1科目、または、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科から2週単位で2科目または4週単位で1科目）を必修とする。これらの科目については1年目または2年目に履修する。

一般外来研修は、内科、外科、小児科、地域医療のいずれかで4週以上研修する。

必修科目は到達目標を達成するまで延長可能。選択しなかった科目については、自由科目を使って到達目標を達成する。

ただし、到達目標が達成できるような選択になるように指導を行う。

各診療科プログラムでは協力型病院での短期研修を含む場合がある。

臨床研修2年次からの大学院進学を認める。

自由科目：第1内科、第2内科、第3内科、脳神経内科、総合内科、CCU、  
心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、産科婦人科、整形外科、  
脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、  
小児科、放射線科、麻酔科疼痛治療科、高次救命治療センター、病理部、検査  
部、新生児集中治療部（NICU）、地域医療、保健・医療行政、その他（協  
力型病院・施設の科目）

(プログラム名) 岐阜大学病院地域医療重点プログラム

(1) 研修プログラムの名称及び責任者

プログラム名称 岐阜大学病院地域医療重点プログラム  
責任者 医師育成推進センター 牛越 博昭

(1) プログラムの特色

協力型病院と連携したプライマリケア研修と専門医の取得を同時に視野に捉えたオーダーメイド構成になっており、研修医個人の能力に見合った研修ができるようきめ細やかな指導医体制とフィードバックシステムを構築している。県内のみならず県外離島の医師少数区域での地域医療研修を12週以上行うことで、地域医療の安定的確保を実施する。また、希望者には海外での短期研修を実施する。

(2) 臨床研修の目標の概要

必修科選択により先ずプライマリケアに関する研修の到達目標をクリアし、指導医評価を行う。次いで希望する診療科を自由選択して専門性の向上を図り、専門研修プログラムに前倒し的にリンクさせる。希望者を対象として初年度から専門医の取得を目指した平行型の研修をプロトコールに従い実践する。

(3) スケジュール

1年目の研修ローテーション例

24週	12週	8週	4週
内科 (必修)	救急 (必修)	外科 (必修)	小児科 (必修)

2年目の研修ローテーション例

4週	4週	12週	28週
産婦人科 (必修)	精神科 (必修)	地域医療 (必修)	自由科目(選択科目)

備考：基幹型病院での研修期間は12ヶ月以上（協力型病院での研修期間は最長12ヶ月）、協力施設での研修は原則12週以内とする。

内科研修及び、救急研修については原則1年目とするが、それぞれ最大8週、2年目において研修することができる。

外科1（心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科）から4週単位で1科目、外科2（外科1で選択した外科以外の、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科から4週単位で1科目、または、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科から2週単位で2科目または4週単位で1科目）を必修とする。これらの科目については1年目または2年目に履修する。

一般外来研修は、内科、外科、小児科、地域医療のいずれかで4週以上研修する。

必修科目は到達目標を達成するまで延長可能。選択しなかった科目については、

自由科目を使って到達目標を達成する。

ただし、到達目標が達成できるような選択になるように指導を行う。

各診療科プログラムでは協力型病院での短期研修を含む場合がある。

臨床研修2年次からの大学院進学を認める。

自由科目：第1内科、第2内科、第3内科、脳神経内科、総合内科、CCU、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、産科婦人科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、精神科、小児科、放射線科、麻酔科疼痛治療科、高次救命治療センター、病理部、検査部、新生児集中治療部（NICU）、地域医療、保健・医療行政、その他（協力型病院・施設の科目）

#### （4）指導医について

指導医として、プライマリケア連合学会の認定医、指導医が在籍しており、プライマリケア、内科、救急医療と幅広い指導を行える体制にある。また地域医療研修の際には、研修医に同行してきめ細やかな研修指導を行う。

#### （5）臨床研修修了後の体制について

臨床研修修了後においても各医師のキャリア形成プログラムの助言を継続しておこない橋渡しを行う。プログラム内の指導医は幅広い臨床経験があり、各診療科の指導医との連携が密に行うことが可能であり、フォローアップ体制が整っている。

## (岐阜大学病院プログラム、岐阜大学病院周産期プログラム) 協力型研修病院

(40病院)

病院名	内科	救急	外科	麻酔科	小児科	精神科	産婦人科	地域医療	選択科目	研修実施 責任者
岐阜県総合医療センター	○	○	○	○	○	×	○	×	○	豊田 泉
岐阜市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	藤岡 圭
医療法人蘇西厚生会松波総合病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	松波 和寿
岐阜県立下呂温泉病院	○	×	○	×	×	×	×	○	○	西垣 和彦
高山赤十字病院	○	○	○	×	○	×	○	×	○	竹中 勝信
岐阜赤十字病院	○	○	○	○	×	×	×	×	○	林 昌俊
岐阜県厚生農業協同組合連合会久美愛厚生病院	○	○	○	×	×	×	×	×	○	山本 昌幸
中部国際医療センター	○	○	○	○	○	×	○	×	○	大島 靖広
岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	白木 亮
医療法人社団志聖会犬山中央病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	宮村 耕一
羽島市民病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	山田 卓也
岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐北厚生病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	早川 和良
朝日大学病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	岡 直樹
医療法人香徳会関中央病院	○	×	×	×	×	×	×	○	×	植松 孝広
独立行政法人国立病院機構長良医療センター	×	×	×	×	○	×	×	×	×	安田 邦彦
聖路加国際病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	大谷 典生
一宮市立市民病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	志水 清和
彦根市立病院	○	○	○	○	○	×	×	×	○	中野 顯
郡上市民病院	○	○	○	×	○	×	○	○	○	畑佐 匡紀
美濃市立美濃病院	○	×	○	×	×	×	×	○	○	阪本 研一
大垣市民病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	大西 将美
愛知県がんセンター	○	×	○	×	×	×	×	×	○	原 文堅
岐阜県厚生農業協同組合連合会西濃厚生病院	○	×	○	×	○	×	×	×	○	西脇 伸二
総合大雄会病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	高田 基志
大雄会第一病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	藁島 謙一
公立学校共済組合東海中央病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	川端 邦裕
大垣徳洲会病院	○	○	○	×	×	×	×	×	○	間瀬 隆弘
独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター	○	○	○	○	○	×	×	×	○	伊藤 武
岐阜県厚生農業協同組合連合会西美濃厚生病院	○	×	×	×	×	×	×	×	○	前田 晃男
地方独立行政法人岐阜県立多治見病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	堀部 秀樹
土岐市立総合病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	北島 英臣
総合病院中津川市民病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	林 和徳
岐阜県厚生農業協同組合連合会東濃厚生病院	○	×	○	×	×	×	×	×	○	塚本 英人
医療法人春陽会 慈恵中央病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	竹内 巧治
岐阜勤労者医療協会 みどり病院	○	×	×	×	○	×	×	×	×	西尾 大樹
一宮西病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	上林 弘和
公立陶生病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	中島 義仁
多治見市民病院	○	○	○	○	○	×	×	×	○	今井 裕一
岩手県立 磐井病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	桂 一憲
長崎県五島中央病院	○	×	○	×	×	○	○	×	×	北島 正親

協力施設

自由科目：選択（2施設）

施設名	研修実施責任者
岩砂病院・岩砂マタニティ（産科研修の協力施設）	岩砂 智丈
医療法人澄心会岐阜ハートセンター（循環器内科・心臓血管外科）	中川 正康

地域医療：必修（31施設）

施設名	研修実施責任者
岩手県立 千厩病院	佐藤 一
国民健康保険 坂下診療所	高山 哲夫
県北西部地域医療センター国保 和良診療所	後藤 忠雄
社団医療法人かなめ会 山内ホスピタル	山内 雅裕
特定医療法人白鳳会 鷺見病院	永田 高康
国民健康保険 上矢作病院	佐本 洋介
市立 恵那病院	山田 誠史
特定医療法人録三会 太田病院	佐々木 裕茂
下呂市立 金山病院	須原 貴志
隠岐広域連合立 隠岐島前病院	黒谷 一志
国民健康保険 飛騨市民病院	黒木 嘉人
総合在宅医療クリニック	市橋 亮一
揖斐郡北西部地域医療センター	横田 修一
下呂市立 小坂診療所	草壁 駿輝
東白川村国保診療所	北川 浩司
久々野診療所	阪 哲彰
荘川診療所	熊田 裕一
清見診療所	清水 洋範
朝日診療所	佐藤 千成
高根診療所	川尻 宏昭
医療法人沖縄徳洲会 与論徳洲会病院	高杉 香志也
医療法人和光会 山田病院	松原 健治
谷汲中央診療所	風呂井 学
県北西部地域医療センター 白鳥病院	伊左次 悟
県北西部地域医療センター 高鷺診療所	後藤 忠雄
県北西部地域医療センター 白川診療所	元田 晴伸
シティ・タワー診療所	島崎 亮司
医療法人徳養会 沼口医院	沼口 諭
医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック	安藤 大樹
医療法人白水会 白川病院	野尻 基
総合在宅医療クリニックみの	密山 要用

保健・医療行政：選択（10施設）

施設名	研修実施責任者
岐阜県岐阜保健所	稲葉 静代
岐阜市保健所	中村 こず枝
岐阜県東濃保健所	山田 敬一
岐阜県関保健所	久保田 芳則
岐阜県赤十字血液センター	高橋 健
岐阜県恵那保健所	加納 美緒
岐阜県飛騨保健所	氏平 高敏
岐阜県可茂保健所	久保田 芳則
岐阜県西濃保健所	河野 芳功
一般社団法人 ぎふ総合健診センター	上村 博幸

※ 麻酔科について、研修することを勧める。

※ 救急について、たすき掛けの場合においても、4週間岐阜大学において研修することを勧める。

## (岐阜大学病院地域医療重点プログラム)

## 協力型研修病院(40病院)

病院名	内科	救急	外科	麻酔科	小児科	精神科	産婦人科	地域医療	選択科目	研修実施 責任者
岐阜県総合医療センター	○	○	○	○	○	×	○	×	○	豊田 泉
岐阜市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	藤岡 圭
医療法人蘇西厚生会松波総合病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	松波 和寿
岐阜県立下呂温泉病院	○	×	○	×	×	×	×	○	○	西垣 和彦
高山赤十字病院	○	○	○	×	○	×	○	×	○	竹中 勝信
岐阜赤十字病院	○	○	○	○	×	×	×	×	○	林 昌俊
岐阜県厚生農業協同組合連合会久美愛厚生病院	○	○	○	×	×	×	×	×	○	山本 昌幸
中部国際医療センター	○	○	○	○	○	×	○	×	○	大島 靖広
岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	白木 亮
医療法人社団志聖会犬山中央病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	宮村 耕一
羽島市民病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	山田 卓也
岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐北厚生病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	早川 和良
朝日大学病院	○	×	○	×	×	×	×	×	×	岡 直樹
医療法人香徳会関中央病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	植松 孝広
独立行政法人国立病院機構長良医療センター	×	×	×	×	○	×	×	×	×	安田 邦彦
聖路加国際病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	大谷 典生
一宮市立市民病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	志水 清和
彦根市立病院	○	○	○	○	○	×	×	×	○	中野 顯
郡上市立市民病院	○	○	○	×	○	×	○	○	○	畑佐 匡紀
美濃市立美濃病院	○	×	○	×	×	×	×	×	○	阪本 研一
大垣市立市民病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	大西 将美
愛知県がんセンター	○	×	○	×	×	×	×	×	○	原文 堅
岐阜県厚生農業協同組合連合会西濃厚生病院	○	×	○	×	○	×	×	×	○	西脇 伸二
総合大雄会病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	高田 基志
大雄会第一病院	×	×	×	×	×	×	×	×	○	蓑島 謙一
公立学校共済組合東海中央病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	川端 邦裕
大垣徳洲会病院	○	○	○	×	×	×	×	×	○	間瀬 隆弘
独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター	○	○	○	○	○	×	×	×	○	伊藤 武
岐阜県厚生農業協同組合連合会西美濃厚生病院	○	×	×	×	×	×	×	×	○	前田 晃男
地方独立行政法人岐阜県立多治見病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	堀部 秀樹
土岐市立総合病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	北島 英臣
総合病院中津川市民病院	○	○	○	×	○	×	×	×	○	林 和徳
岐阜県厚生農業協同組合連合会東濃厚生病院	○	×	○	×	×	×	×	×	○	塚本 英人
医療法人春陽会 慈恵中央病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	竹内 巧治
岐阜勤労者医療協会 みどり病院	○	×	×	×	○	×	×	×	×	西尾 大樹
一宮西病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	上林 弘和
公立陶生病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	中島 義仁
多治見市民病院	○	○	○	○	○	×	×	×	○	今井 裕一
岩手県立 磐井病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	桂 一憲
長崎県五島中央病院	○	×	○	×	×	○	○	×	×	北島 正親



## 協力施設

### 自由科目：選択（2施設）

施設名	研修実施責任者
岩砂病院・岩砂マタニティ（産科研修の協力施設）	岩砂 智丈
医療法人澄心会岐阜ハートセンター（循環器内科・心臓血管外科）	中川 正康

### 地域医療：必修（18施設）

施設名	研修実施責任者
岐阜県立下呂温泉病院	西垣 和彦
郡上市民病院	畑佐 匡紀
郡上市地域医療センター国保和良診療所	後藤 忠雄
下呂市立金山病院	須原 貴志
国民健康保険飛騨市民病院	黒木 嘉人
揖斐郡北西部地域医療センター	横田 修一
下呂市立小坂診療所	草壁 駿輝
久々野診療所	阪 哲彰
荘川診療所	熊田 裕一
清見診療所	清水 洋範
朝日診療所	佐藤 千成
高根診療所	川尻 宏昭
谷汲中央診療所	風呂井 学
県北西部地域医療センター国保白鳥病院	伊左次 悟
県北西部地域医療センター国保高鷲診療所	後藤 忠雄
県北西部地域医療センター国保白川診療所	元田 晴伸
医療法人徳養会 沼口医院	沼口 諭
医療法人白水会 白川病院	野尻 基

### 保健・医療行政：選択（10施設）

施設名	研修実施責任者
岐阜県岐阜保健所	稲葉 静代
岐阜市保健所	中村 こず枝
岐阜県東濃保健所	山田 敬一
岐阜県関保健所	久保田 芳則
岐阜県赤十字血液センター	高橋 健
岐阜県恵那保健所	加納 美緒
岐阜県飛騨保健所	氏平 高敏
岐阜県可茂保健所	久保田 芳則
岐阜県西濃保健所	河野 芳功
一般社団法人 ぎふ総合健診センター	上村 博幸

※麻酔科について、研修することを勧める。

※救急について、たすき掛けの場合においても、4週間岐阜大学において研修することを勧める。

# 令和7年度研修医募集要項 及び処遇

## 令和7年度研修医募集要項及び処遇

募集及び採用の方法	出願資格	次の全ての要件を満たす者とする。 (1) 第119回医師国家試験を受験する者 (2) 令和6年度医師臨床研修マッチングに参加登録する者
	募集定員	岐阜大学病院プログラム 22名 岐阜大学病院周産期プログラム 4名 岐阜大学地域医療重点プログラム 3名
	研修の開始時期	令和7年4月1日
	選抜方法	(1) 書類審査 (2) 面接試験(10分～15分間)
	採用試験期間及び場所	・岐阜大学地域医療重点プログラム：6月～7月(随時日程調整) ・岐阜大学病院プログラム：8月26日(月)～30日(金) 予定 ・岐阜大学病院周産期プログラム：8月26日(月)～30日(金) 予定 場所：オンライン(時間及び場所は願書受付後通知) *採用試験日等について要望がある場合には、医師育成推進センターへご連絡ください。
	出願手続	出願書類 (1) 所定の選抜試験願書(HPからダウンロード:PDF)又は市販の履歴書に必要事項を記入し、写真(縦4cm×横3.5cmで、3カ月以内に撮影した同一正面上半身脱帽のもの)を貼付する。 *希望プログラム及びコースを希望順に記入すること。 (2) 成績証明書 出願方法 (1) 郵送 郵送の場合は、封筒に「研修医 応募書類在中」と朱書きし、レターパックなどの追跡サービスのあるものをご利用ください。 (2) 持参 持参の場合は、平日9:00～17:00までにお越しください。
	出願期間	・岐阜大学地域医療重点プログラム：6/3(月)～7月中旬 ・岐阜大学病院プログラム：6月中旬～8月16日(金) ・岐阜大学病院周産期プログラム：6月中旬～8月16日(金)
研修医の処遇	常勤・非常勤の別	非常勤
	研修手当	基本手当：10,000円/日 研修奨励手当：80,000円/月 時間外勤務手当 <input checked="" type="checkbox"/> 夜間診療業務手当 <input checked="" type="checkbox"/>
	勤務時間	基本的な勤務時間 8:30～17:15 休憩時間 12:00～13:00 時間外勤務： <input checked="" type="checkbox"/>
	休暇	有給休暇(1年次：10日、2年次：11日) 特別休暇 <input checked="" type="checkbox"/>
	当直	回数(約4～5回/月)
	研修医宿舎	<input checked="" type="checkbox"/> (単身用：16戸)(家賃5,000円/月、駐車場・共益費は自己負担)
	研修医室	<input checked="" type="checkbox"/> (1室)
	社会保険・労働保険	公的医療保険(文部科学省共済組合) 公的年金保険(厚生年金) 労働者災害補償保険法の適用 <input checked="" type="checkbox"/> 雇用保険 <input checked="" type="checkbox"/>
	健康管理	健康診断(年2回)
	医師賠償責任保険	病院において加入、任意で個人加入
	外部の研修活動	学会・研究会等への参加：可、学会・研究会等への参加費用支給 <input checked="" type="checkbox"/>

院内保育所	院内保育所 <input checked="" type="checkbox"/> ( 8時 00分 ~ 17時 00分) 病児保育 <input checked="" type="checkbox"/> 夜間保育 無
体調不良時に休憩・授乳等に使用できる場所	休憩場所 <input checked="" type="checkbox"/> 授乳スペース <input checked="" type="checkbox"/>
	初期臨床研修期間のアルバイトは禁止